

「フラッシュ型 例文・対訳提示ツールを用いた フランス語の授業の実践と試み」

Utilisation de l'informatique pour la présentation
et la traduction de phrases françaises en japonais
dans les classes de français

川口 陽子
KAWAGUCHI Yoko
Université de Kobe
QWS10233?nifty.com

黒田 恵梨子
KURODA Eriko
Université des études
étrangères de Kyoto
e_kurod?ab.auone-net.jp

神谷 健一
KAMIYA Kenichi,
Institut de technologie
d'Osaka
kamiya?ip.oit.ac.jp

1. 科研プロジェクトの概要および「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」 の概略 (神谷)

本稿は黒田ほか(2013)に続く内容であり、神谷が自作し無料公開している全言語共通の「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」をフランス語教育において実践利用した際の報告を行うものである。

本研究は7言語12名(平成25年度より研究協力者が1名追加となっている)の外国語教員が関与する共同研究プロジェクトの一環であり、平成24~26年度科学研究費補助金基盤研究(C)『データベースソフトを活用した初習外国語における教材提示の円滑化と授業の活性化』(課題番号 24520675)の助成を受けて実施している。この2年目にあたる平成25年度には、本研究に関わる7言語のうちの多くの言語チームで、実践事例の収集とツール自体の評価が行われた。

まず、このツールの名称の由来である「フラッシュ型」について概要を説明する。大辞林第三版の定義によれば「学習教材で、単語や数字、絵を書いたカード。幼児などの学習者に短時間見せて、反応速度を向上させる練習をする。早期教育などで用いる。」とある。これをPowerPointスライドによって実践する事例も多く、その一例として小・中学校用のPowerPointスライド教材を無料でダウンロードできる会員制サイトとしてeTeachers (<http://eteachers.jp>)がある。

しかし黒田ほか(2013)が報告したように、こうした教材をデータベースソフトによって開発すると授業での活用の幅が一層広がり、従来型の「黒板+チョーク」では実現しにくい指導手法を効率的に行うことができる。「動詞変化形提示ツール」と同様、「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」でも同様に、利用する例文を予め用意されているExcelファイルに入力し、ツールに取り込むという手順に従うが、ツール上では一覧表示から提示したい例文を選ぶ(表示中の全件提示も可)ことができ、例文・対訳の提示切り替え、空所を含む例文の空所を埋めたデータと入れ替え表示ができる、ヒント情報を例文と共に表示する、対訳やヒントを出しながら(消した状態も可)例文を1語ずつ表示するといった、さまざまな形式で提示することができる。このように多様な方法で提示することができるにも関わらず、入力するデータはExcelファイルに1回だけで済ませることができる点は、提示したい内容に応じてスライドを作成する手間と比べると圧倒的な省力化が図れている。

2. 「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」の授業での実践例について——復習の場面を中心に（黒田）

ここでは、「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」の紹介とその使用例について述べてみたい。このツールは前述のように、あらかじめ Excel で例文のデータを作成しておき、それを PC を介して、プロジェクターで投影して使用する。このツールは、単に「例文と対訳」を提示するだけでなく、画面上のボタンを操作することで「例文のみ」あるいは「対訳のみ」の表示や、例文を前から順番に一語ずつ表示したりすることができる。（図 1）



(図 1)



(図 1 の拡大)

実際の授業におけるツールの使用には様々な可能性があるが、筆者は主に復習の場面で活用している。例えば 1 年次の初級クラスの場合は、既習項目の復習の際、最初に「例文のみ」の画面を提示し、学生を指名してその文を発音させる。この時、正しくリエゾンやアンシェヌマンができていないかを確認し、クラス全体にも見えるように、画面上にポインターでその部分を指し示して注意を促す。

次に、この文の日本語訳を言わせる。すぐに答えられない場合は、一度文の表示を消して、前から順番に単語を表示しながら、単語ごとに意味を言わせるようにする。文章の核となる構文は、そのみ表示できる場合は表示し、できない場合は画面上でポインターで強調する。

これら一連の練習を、単語を変えた例文で何度か繰り返し、慣れてきたところで、次は日本語のみを表示してフランス語を言わせる、という練習に移る。いわゆる和文仏訳であるが、学生がすぐに答えられない場合は、フランス語の文章の最初の単語を表示したり、構文のヒントを与えるなどして手助けする。

以上が「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」を使った一番シンプルな練習例であるが、フランス語と言えば、動詞活用が一つの難所であると思われる。次に動詞活用を含む例文の練習について述べてみたい。例文を提示する前に、まずは学生に動詞活用を思い出してもらうために、筆者は昨年のランコントロールでも取り上げた「動詞変化形提示ツール」を使用している。

例えば基本動詞 être であるが、「動詞変化形提示ツール」で être の活用表を提示し、一通り動詞活用を復習する。（「動詞変化形提示ツール」の詳細については黒田ほか(2013)をご参照願いたい。）その後「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」を使い、前述と同じ手順（文を発音→和訳→和文仏訳）で学習項目の復習と定着をはかる。être と国籍の組み合わせ練習の場合、国籍に男性形と女性形があるが、それぞれ画面を切り替えて提示することで、視覚的につづりの違いを認識させることができる。さらに複数形の場合も同様である。「フラッシュ型 例文・対訳提

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2014

示ツール」では、あらかじめデータを入れておけば、主語や属詞の部分を入れ替えた練習することができる。

中級クラスなど、構文がすでにしっかり入っているクラスであれば、いきなり和文仏訳から入ることも可能である。いずれも最初は単純な構文から入り、次第に難易度を上げていくという形で練習すれば、学生もパターンがだんだん頭に入ってきて、スラスラと言えるようになってくるようである。

語学を学習する際、発音や文型を覚えるには、自分で何度も口に出して試みるのが重要であるが、「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」を使うことで、学生はごく簡単な例文から練習を始め、その練習もまるでゲームに参加するかのように取り組むことができるので、パターン練習にありがちな単調さに陥らず、自然と楽しみながら覚えることができるように思われる。そして「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」のみの使用でも十分効果があると思われるが、前述のように「動詞変化形提示ツール」と組み合わせることで、学生の理解も進み、「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」での練習がさらに効果的になると感じている。

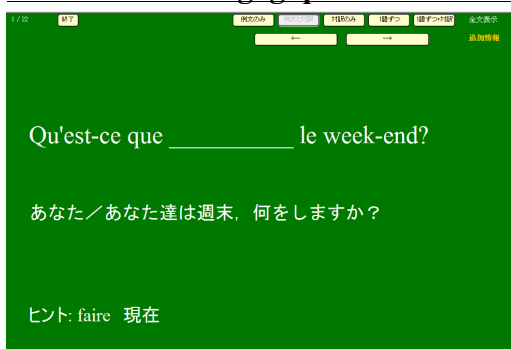
最後に、学生の感想であるが、「わかりやすい」「頭に入る」など、概ね好意的な感想が多かった。とはいえ「接続に時間がかかる」「タイプミスがあるとテンション下がる」など、教員側の不手際による不評もあった。この点はもう少し工夫する必要を感じている。またこれは筆者個人の印象であるが、このような練習はあまり時間をかけ過ぎると、やはりどうしても単調になってしまい、飽きてくる学生も出てくるので、実施のタイミングや継続時間など、もっと効率よい練習を心がけなければならないと思った。

3. 動詞の活用および用法の定着を目指した「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」の実践報告——コミュニケーションクラスを例に（川口）

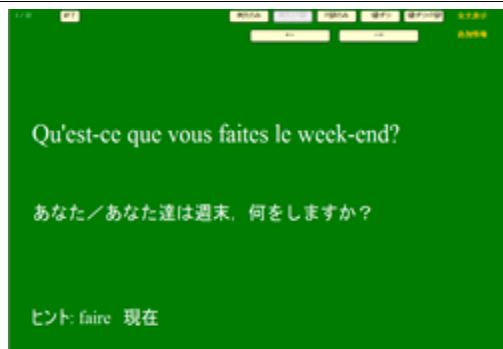
コミュニケーションの授業で「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」を使用するにあたり、その使用目的を「動詞の活用および用法の同時定着」と定めた。以下はその実践の報告と、学生の感想の分析である。分析の対象は、2013年度後期（秋学期）に筆者が担当した「コミュニケーション」を授業テーマとする1年生対象1クラス（37名）と2年生対象1クラス（17名）である。ちなみにどちらのクラスにおいても、履修者は第2外国語としてフランス語を学ぶ学生達である。

「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」を使用した際の授業の流れと到達目標は以下の通りである。

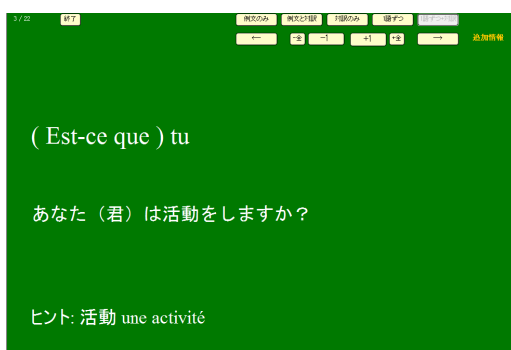
まず「動詞変化形提示ツール」においてランダムな主語の順で動詞の活用が言えるようになる練習を行った後、「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」を「穴埋め例文」によって提示し、文中で隠されている主語と動詞を書くという小テストを行った（図2）。その際の到達目標は、①動詞の活用を瞬時に思い出して書けること、および、②動詞と他の要素の関係を理解できることである。なお、答え合わせは小テストの直後に同じスライドを用いて、全文表示に切り替える方法で行った（図3）。続いて「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」の「1語ずつ提示機能」を用いた練習を行った（図4、図5）。その際の到達目標は、①和文仏訳ができること、または、②フランス語の質問にフランス語で答えることができることである。なお、1年生対象クラスでは教科書の重要構文を、2年生対象クラスでは学生が作った文を、それぞれ取り上げた。さらには、単文の作文練習（1年生）や自由作文テスト（2年生）も行い、動詞の活用と用法の定着をさらに確実なものとするように試みた。



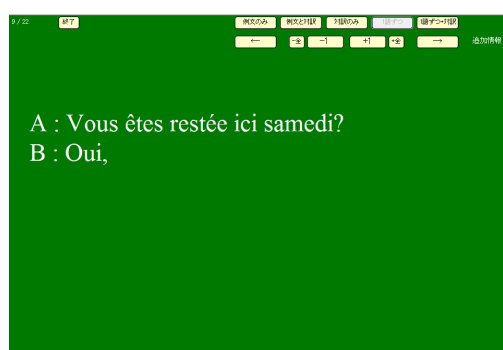
(図 2 : 穴埋め例文<出題>)



(図 3 : 穴埋め例文<解答>)



(図 4 : 1 語ずつ提示機能
<和文仏訳>)



(図 5 : 1 語ずつ提示機能
<質問の答えを完成させる>)

このような「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」での学習に対して、学生達はおおむね好意的な感想を持ったことが学生アンケートの結果からうかがえる（「大変役に立つ」と「少し役に立つ」を合わせると 90%を超える）。

学生達の声をもとに見てみると、「穴埋め例文を使った提示」に関しては、良かった点として「分かりやすい」「隠された部分を思い出すために頭を使うので、活用を覚えやすい」「動詞の活用と使い方の両方の理解が深まる」「その場で考え、すぐに確認できる」「自分の理解度を把握できる」が挙げられた。これらから動詞の活用と用法を同時に理解するという目的にツールの使用は適していると言えるだろう。一方、改善すべき点としては「小テストの時間（15 秒）が短い・少し速い」および「日本語の中で主語と動詞を探すのに時間がかかる」という意見があった。前者に関しては、難度に応じて時間調整をする必要性を感じると同時に、時間内に答えられる人が多い問題で「速すぎる」と感じるのは練習不足だからであると認識させ、家庭学習を促すきっかけとすることができるのではないかと考える。後者に関しては、例文が長くなると対訳を読んで理解することに時間がかかることが予想され、その対策として、対訳でも主語と動詞にかっこを付け、目立たせることを検討している。

「1 語ずつ提示機能」に関しては「分かりやすい」「少しずつ出してくれるので考える時間があって良かった」「1 語ずつ出てくるスピードが思い出すスピードとあっていい」「語順が覚えられる」「一文で覚えられる」「応用力が身につく」などが良かった点として挙げられ、動詞の用法や文の構造の理解に役に立っていたことが確認される。改善点としては「難しい」と「速い」の 2 点が挙げられる。前者に関しては、文を作成するためには動詞の活用をはじめ、語順、語彙など様々な点に意識をしなければならず、穴埋め問題と比較して難度があがっているのは確かだ

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2014

う。したがって難度に応じてヒントを増やし、時には学生が提案した「並べ替え」も視野に入れて、難度を下げる工夫をすることが必要であると考えている。また「速さ」に関しては、解答者である学生のスピードに合わせて1語ずつ提示しているので、速すぎるとは考え難い。むしろ「速い」と感じる学生に「練習不足」を認識させ、学習時間の増加を促すことが肝心であると考えている。

このようにコミュニケーションクラスにおいて比較的好意的に評価された「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」であるが、別途行ったその他のクラス（文法、書く・読む）における評価と比較すると、実は、「大変役に立った」という回答が少な目である。その理由としては、その時々習得目標となる文法項目が明確であるこれらのクラスとは異なり、コミュニケーションクラスではツールを用いた練習と授業内容との関連性が分かりにくかったからではないかと推測される。したがって、ツールを用いた練習後に、それを発展させたコミュニケーション練習を行うことをさらに重視した授業を組み立てていくことを今後の課題としたい。

4. 今後の展望（神谷）

冒頭で述べたように本プロジェクトは平成26年度に終了するため、最終年度の課題として「各ツールの実践事例つきツール操作マニュアルの作成」を予定している。黒田ほか(2013)はフランス語とイタリア語の事例を集めた共同研究であったが、本プロジェクトではロシア語教育での実践事例が先行している側面がある。これを扱った高木ほか(2011)の事例はフランス語教育での事例にも大いに役立っているが、今年度のフランス語教育での実践事例では、開発者の神谷自身も予想していなかったツール利用法が川口によって創造的に見出され、ツール改良に向けての原動力となった。また、イタリア語教育での事例は現在開発中の第4のツール（「文変形提示ツール」と仮称）にも繋がっている。このように、言語の壁を越えて様々な実践事例が共有されていくことは、今後の外国語教育の発展にも少なからず寄与していくものであると関係者一同、大いなる希望をもって研究開発と授業実践事例の蓄積に取り組んでいる。

* 「フラッシュ型 例文・対訳提示ツール」のダウンロードサイト

<http://www.oit.ac.jp/ip/~kamiya/fra/>

ツールの使い方等についての問い合わせ先：神谷 健一, kamiya@ip.oit.ac.jp

* 主な参考文献

黒田恵梨子・川口陽子・堂浦律子・井上昭彦・神谷健一(2013)「動詞活用の定着を目的とした効果的な方法の試みと実践 ～ 動詞変化形提示ツールを使用した試みを中心に ― フランス語とイタリア語の場合 ～」『Rencontres』第27号,

http://www.rpkansai.com/bulletins/pdf/027/103_107_kuroda.pdf

神谷健一・三浦由香利・高木美菜子・田原憲和・池谷尚美・柿原武史・川口陽子・黒田恵梨子・堂浦律子・井上昭彦・金善美(2012)「データベースソフトウェアの活用―外国語授業における教材提示の円滑化と授業の活性化に向けて―」『第37回教育システム情報学会全国大会講演論文集』,

<http://www.jsise.org/taikai/2012/program/contents/pdf/E4-3.pdf>

高木美菜子・三浦由香利・神谷健一(2011)「データベースソフトウェアを利用した教材作成支援ツールの開発とロシア語教育における多面的利用の可能性」『ロシア語教育研究』第2号, ISSN 2185-2979, pp.25-36, 日本ロシア語教育研究会, <http://rokyoken.web.fc2.com/shiryo/kaishi2011.pdf>